



まきがはら

中川中学校通信
第10号
令和8年1月16日
文責：保科 公幸

学校教育
目標
目指している
生徒の姿

自ら考え 創造的に 追究する人	自考創造(じこうそうぞう)
心身を鍛え たくましい 実行力のある人	自鍛実行(じたんじっこう)
思いやりの心をもつ人	自他仁恕(じたじんじょ)

2026

あけましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



1月8日に3学期始業式を行いました。

2026年が幕を明けました。13日間の年末年始休業を終え、8日は多くの生徒の皆さんがあなたに登校しました。3学期始業式では、各学年の代表の生徒が今年度の決意を発表しました。学習面、生活面等、それそれが思い思いの目標をもって新年をスタートしたようです。

校長先生のお話では、以下の話がありました。

「休眠打破」

桜は、暖かな春になると芽を出し、成長し、つぼみをつけ、花を咲かすのではありません。実は、葉っぱがたくさんある夏には次の春に咲く花の芽を出し、エネルギーを蓄え、葉っぱをすべて落とす秋から冬の始めにかけて、成長を止め、眠りに入ります。その蓄えたエネルギーがある一定の期間の寒さを経験することにより、目を覚まし、春には美しい花を咲かせることができます。春に咲く桜の花の芽は、実は前の年の夏にはもうできています。一度できた芽は、夏から秋にかけてそして、冬の寒さを感じて目を覚まし、やがて暖かくなると成長し、春には美しい花を咲かせるのです。

花の芽が眠りから覚めて、春に向けて成長していくためには「冬の寒さ」が絶対に必要なことです。そして、寒さが植物の眠りを打ち破り、成長させ、花を咲かせることにつながるということを「休眠打破」と言うのです。

春夏秋冬の四季がある日本だからこそ、桜は美しく、きれいに咲くことができるのです。冬の寒さには、命が持っている力を目覚めさせる力があるということです。

この「休眠打破」はみなさんにもいろいろ当てはまると思います。

例えば、いろいろ頑張っているが進歩しない、できるようにならないということがあれば、それはエネルギーを蓄えているのです。諦めないで続けていれば、どこかのタイミングでできるようになる、進歩するということです。自分の好きなこと、頑張っていることは、結果がでていなくても続けていればどこかで、何かの刺激でできるようになるということです。継続は力なりということですね。

あと、みなさんはいろいろな可能性が眠っています。何が得意で、何に興味関心を持つか分かりません。いろいろなことに挑戦してみることがあなたの可能性を目覚めさせることになります。何でも挑戦してみてください。特に、いやだなあということや苦手かなと思うことの中に、案外あなたの可能性の芽が潜んでいるかもしれません。

また、学校生活でいうと、3学期は、次年度に備える学期です。学習のまとめをし、自分の生活を振り返り、目標は達成されたのか、やり残したことはないか、じっくり考え、やるべきことをこつこつと一つ一つ

丁寧にやっていくということです。自分ができるようになったこと、継続していることは大いに自分を褒めてあげてください。「まだ努力が足りないぞ」というようなことがあれば、努力を続けましょう。3年生は卒業と進路選択に向けて、1、2年生は進級に向けて進んでいきましょう。それが3学期です。そして、冬の寒い3学期を無事に耐え切れば、花の咲く新年度を迎えることができますよ。

短い3学期ですが、どうかひとりひとり充実した学期としてください。以上です。

3学期の登校日数は47日です。あっという間に過ぎ去っていく学期ではありますが、4月からの自分の生活を見据えて準備をする大事な学期でもあります。4月からの生活をイメージし、今できることを精一杯取り組む3学期にしましょう。



3学年代表生徒



2学年代表生徒



1学年代表生徒

ダルマの目入れを行いました。（「常泉寺除夜の鐘をつく会」より寄贈）

中川中学校の生徒玄関には、ひときわ大きな中川中学校ダルマがあります。これは、「常泉寺除夜の鐘をつく会」が、中川中学校のために昭和51年度から毎年寄贈してくださっているものです。

毎年、3学期始業式後に、ダルマの目入れを全校生徒とともにを行い、学校の安全、生徒の活躍を願っています。校長先生と3年生生徒会三役が令和7年のダルマに、校長先生と2年生新生徒会三役の皆さんのが令和8年のダルマに目入れを行いました。

昨年の学校の安全と生徒の活躍を祝うとともに、今年も中川中学校がより発展することを祈願して目入れを行いました。

是非中川中学校にご来校の際は、生徒玄関に置いてあるダルマに注目していただければ幸いです。

